

「信仰と福音宣教共同体であるキリスト者の家庭」

(聖ヨハネ・パウロ教皇使徒的勸告『家庭—愛といのちのきずな』)

小さな家庭教会は、より大きな教会と同様に、絶えず力強く福音化される必要がある。そこから、信仰における生涯教育の課題が生じる (51 項参照)。

キリスト者の家庭は、福音を受け入れ信仰を深めるにつれて、福音を告げ知らせる共同体となる。福者パウロ六世の言葉「家庭は、教会のように、福音が伝えられる場であり、さらにそこから福音が広まっていく場でなければならない。この使命を自覚している家庭では、家族全員が同時に、福音を受け入れながら一方では福音宣教している。親は子どもに福音を伝えるだけでなく、子どもからも生活に深く関わった福音を受け取ることができる。このような家庭は、近くの家庭にとって福音宣教者となる。」・・・福音宣教の将来は、「家庭教会」にかかっている。家庭のこの使徒的使命は、洗礼に基づくもので、結婚の秘跡の恵みから新しい力を受けて、神の計画にそって信仰を伝え、社会を聖化し変容させていくのである。・・・

家庭における信仰教育は絶対に必要である。とりわけ教会が、ある地域で経験している不幸な状況では特に必要である。・・・不信仰またはいわゆる世俗主義の波及に伴い、信仰の真の成長が実際に不可能になっているところでは、この「家庭教会」が児童と若者にとって要理教育を受けることの出来る唯一の場となっている (52 項参照)。

キリスト者の親による福音宣教は独自のもので、他の人が代わることのできないものである。それは、愛・素朴さ・実践・毎日のあかして織りなされる家庭生活である (53 項参照)。

親の具体的な模範と生き方のあかしは、子どもに祈りを教えるうえで最も基本的で欠くことの出来ないものである (60 項参照)。

聖書における関連箇所：

家庭におけるみことば教育の実践：申命記 6.1-9 参照。

神の国の価値観：マタイ 11.11:18.1-5 参照。

聖家族におけるイエスの成長：ルカ 2.48-52 参照。

聖書教育の幼児期からの実践：テモテ二 3.14-17 参照。